Tea Time Testers & QA Intelligence Testing & QA Management blog

STATE OF TESTING

Report | 2017

テストの現状調査レポート

Sponsored by PractiTest

目次

テストの現状調査プロジェクト	2
回答者の統計情報と専門性に関するプロフィール	3
組織におけるテストの機能	6
トレーニング、スキル、成長	9
テストプロセス	12
テストの現在と未来	15
キャリアと自己啓発	18
おわりに	21
ご協力いただいた方々	22

【テストの現状調査2017 日本語翻訳チームから】
このレポートは、イスラエルのPractiTest社のJoel Montvelisky氏とインドのTea-Time with Tester誌発刊者のLalitkumar Bhamare氏が2013年から毎年実施している『テストの現状調査（State of Testing Survey）』の4回目となる2017年版を翻訳したものです。（第1回の調査は2013年秋に行われ2014年1月にレポートが発行されたため2014年版は欠番）

今回の調査は2017年1 ～ 2月にインターネット上で行われ、1000人以上の回答を得た昨年の第3回を大きく上回る、1600人以上のソフトウェアテストのプロフェッショナルがアンケートに回答しています。もちろん、この中には日本からの回答者も含まれており、レポートのカンファレンス紹介ページではJaSST、WACATE、SQiPのロゴも表示されています。

前回までと同様、翻訳版の作成にあたっては、レポート発行元のPractiTest社から電子データを提供していただき、オリジナルと同様の体裁にしました。

また、嬉しいことに私たちが日本語翻訳版を作成したことをきっかけに、前回（2016年）のレポートから各国語への翻訳が呼びかけられ、日本語に加えてロシア語、オランダ語、スペイン語、ドイツ語、ポーランド語への翻訳が行われるようになりました。世界のテスターの輪の広がりが感じられますね！

この翻訳版レポートが読者のみなさんの問題を解決する手がかりになることを願っています。

2017年7月 ― 日本語翻訳チーム　やの よしを、根本 紀之、辰巳 敬三

© 2017 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

テストの現状調査プロジェクト

「最近、ソフトウェアテストの世界では何が起こっているんだい？」という質問が、私たちが4年前にテストの現状調査レポートの発行を開始して以来、頻繁に尋ねられるようになりました。

興味深い（同時にエキサイティングな）ことに、テストの現状調査レポート2017はいつ出るのかと多くのテスターが積極的に問い合わせしてくれています。このことはこのプロジェクトが世界中のQAコミュニティに提供している価値について多くのことを教えてくれます。

さて、この最新の調査の情報と傾向に基づくと、2016年は全員とは言わないですが、大部分の私たちテスターにとって重大な一年でした。私たちの予想どおり、技術、開発方法論、ツール、技法といった変化を牽引するものがテストの専門家が目指すべきハードルを上げ、私たちの仕事をこれまで以上に挑戦的で面白いものにしているように思われます。

私たちが集めたものやアンケート参加者が提供してくれた情報に基づくと、私たちが今見ているものは始まったばかりでこれからも続いていく挑戦の映画の「予告編」に過ぎません（笑

しかし、挑戦は素晴らしい機会への入口であることがよくありますよね？

この調査に表れた「新しい」クールなものや、勢いがある現在のトレンドを見ると、テスターの地位が安定してきたと確信しています！

それでは私たちが話している挑戦とはどのようなものでしょうか？さらに高くハードルを上げるものはなんでしょうか？どのようなツール、技術、スキルがテスターの戦いを助けてくれるのでしょうか？このレポートを読んで、あなたたち自身でその答えを見つけてください。

混乱しないようにメトリクスとグラフに追加したいくつかの凡例に特に注意してください。これまでと同じように、私たちはできるだけ慎重に調査結果を分析し、いくつかのセクションでは、私たちが思い至った結論も書き留めました。しかしもちろん、私たちは、あなたが行間を読んでご自身でも推論することをお勧めします。私たちが「あなた」が考えていることを知ることは何にも勝る喜びになるでしょう。

とはいっても、このレポートが過去のものと同じくらいあなたにとって有用なものであることを願っています。不明な点があれば、いつでもお気軽にお問い合わせください。このレポートの最後に連絡先の詳細を掲載しています。

おっと、今年の調査を形づくり、これまでで最大規模になるようご協力いただいた検討委員と協力者を忘れるわけにはいきませんね。今回は1600人以上の回答を得て、これまでで最大の調査となりました。この調査にご協力いただいたみなさま、そしてもちろん回答者全員に心から感謝いたします。

楽しんで、そしてこの喜びをさらに広げてください！

Lalit & Joel

テストの現状調査（State of Testing Survey）について

テストの現状調査は世界規模で行われている最大のテストの調査です。この調査は60ヶ国以上から1600人以上の回答者が参加することによって、テストの専門性と世界のテストコミュニティに関するもっとも正確な情報を提供することを目的にしています。毎年調査を実施し、現状と将来の動向を把握しています。

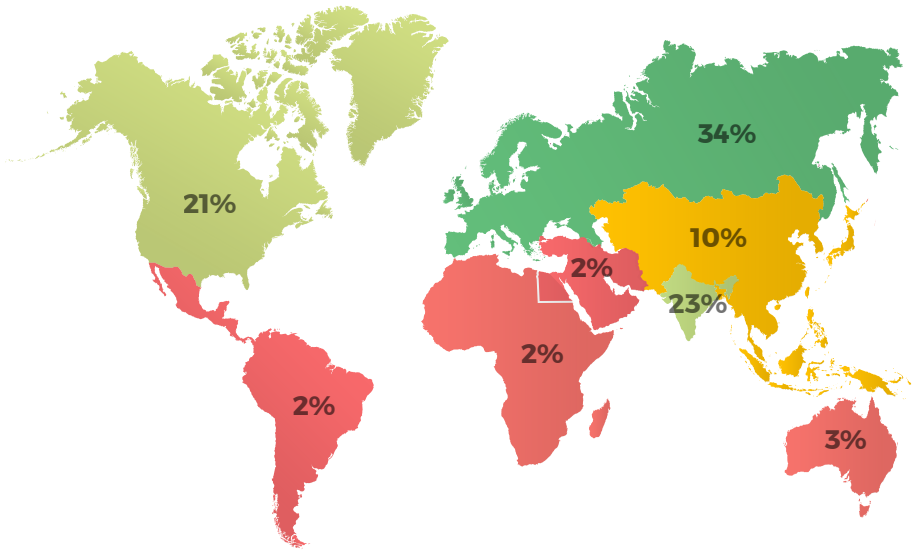
著名なテストのブロガーやオピニオンリーダー（最後の協力者のリストをご覧ください）とともに実現した今回の調査は、テスターであるあなたに、世界のテスターや会社と比較して自身の専門性をよりよく理解し、現状と将来の動向に基づいてより良い準備をするための手助けをします。私たちはテスターからのフィードバックをいつも嬉しく思っていますので、お気軽に連絡をください。

* 昨年までと同様に、この調査報告を複数の言語に翻訳したいと考えています。あなたの国の言語に翻訳したい方がいらっしゃいましたら私たちにお知らせください。

© 2017 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

回答者の統計情報と専門性に関するプロフィール

地域



34%	ヨーロッパ（とロシア）	23%	インド	21%	USA / カナダ
10%	アジア（インド以外）	3%	オーストラリア / ニュージーランド	3%	その他*
2%	アフリカ	2%	ラテンアメリカ	2%	中東

*「その他」の多くが英国からでした：英国のEU離脱？（笑

回答者の肩書き

44.3%
テスター / テストアナリスト

27.7%
テストリード / マネージャー

8.6%
自動化専門テスター

0.3%
性能担当テスター

1.2%
テストアーキテクト

4.2%
ソフトウェアエンジニア

1.5%
プロジェクトマネージャー

4.3%
コンサルタント

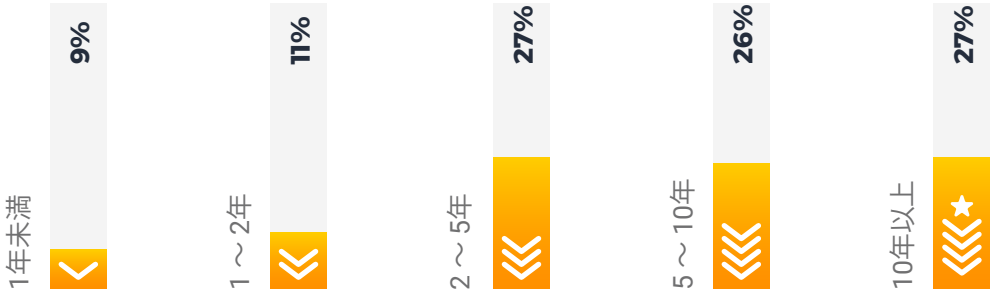
7.8%
その他

今年の調査では回答者の大半がテスターかテストアナリストであり、その割合は昨年の37%から44.3%に増加しました。また、多くの回答者が自身をソフトウェアエンジニアであると見なしており、これは彼らの仕事の種類や最近の産業界におけるテストの見方が変わっていることを示しているのかもしれません。

「その他」の回答として、組込み専門テスター、製品エバンジェリスト、テストにおける開発者、開発者兼DevOpsエンジニア、テストとアジャイルのコーチ、スクラムマスター、製品マネージャー、学生、あと、旅行者が一人（もしこの意味が分かる人がいればぜひともご連絡を!!）いました。

© 2017 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

ソフトウェアテスト分野での就労年数



今年の調査では、過去に比べて回答者の経験年数が短くなりました。特に注目しているのは、1年未満と回答した人が昨年の5%から9%まで増加したことです。職歴上位の「5年から10年」と「10年以上」の「より経験豊富」なテスターが減少しています。

より詳細に回答結果を見てみると、テスターとしてキャリアを積み始めた人が比較的多い「若い」地域、具体的にはインド、中東、中国が存在することが分かりました。

これは、北米や西ヨーロッパ、オーストラリアもしくはニュージーランドのような比較的経験豊富なテスターを抱える地域とは対照的です。

回答結果からもう1つ分かったことは、小さな会社ほど、大きな会社と比べて経験の浅いテスターを多く雇う傾向があることです。あなたやあなたの友人がテストの世界に飛び込む場合は、良いスタートを切れるような機会を与えてくれるスタートアップ、もしくは起業してから日が浅い会社を探すことをお勧めします。

私にとってどんな意味があるの？

あなたやあなたの知人がテスターとしてのキャリアをスタートさせるのであれば、より大きな企業組織の仕事を探すのではなく、より小さい、もしくは起業したばかりの会社で仕事を探したほうが良いでしょう。

テスターとなった理由

32%
偶然テストを始めることになった

24%
テスターになりたくてテストを学び始めた

21%
自社内で他の仕事からテストに異動してきた

16%
学生、またはインターンとして仕事を始めてそのまま続けている...

7%
その他

「その他」の回答の中にはいくつかの興味深い回答がありました：プログラミングやITの仕事からテストに移ってきた方々、テスターとしてゲーム業界で働くことを決めたゲーマー、IT業界のプロジェクトマネージャーと飲みに行ったことがきっかけでテスターとなった人（クールなお話しですね!）、いつも何かを壊すことに情熱を注いでいて、ついにそれを職業とした人、です。

回答結果を詳しく見てみると、長い間テストを続けている人の多くは、偶然テストを始めるか他の仕事からテストに移ってきた人たちであることが分かりました。一方で、経験の浅いテスターの多くは、テスターになりたくてなった、もしくはテスターになるために勉強していることが分かりました。これは、最近はテストについてより正式な教育が実施されており、多くの人達がテストというものについてもっと理解するようになってきたことを表しているのかもしれません。

© 2017 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

テスターの給与

世界のかなりの地域で昨年と比べて給与が大きく上昇しており、USA / カナダ、ラテンアメリカ、東ヨーロッパ / ロシアでは、報告された給与額が最大となっています。一方でインド地域では、これまでと同様の給与額でした。

Min Max

	1年未満	1 ～ 2年	2 ～ 5年	5 ～ 10年	10年以上
アフリカ	NA*	$5 000	$28 000	$37 000	NA*
アジア	NA*	$9 000	$18 000	$36 000	$44 000
中国	NA*	NA*	$12 000	$22 000	NA*
インド	$10 000	$11 000	$22 000	$28 000	$37 000
ラテンアメリカ	NA*	$11 000	$16 000	$27 000	$57 000
東ヨーロッパ / ロシア	$9 000	$15 000	$21 000	$33 000	$71 000
西ヨーロッパ	$26 000	$28 000	$41 000	$47 000	$78 000
中東	NA*	NA*	$38 000	$97 000	$99 000
オーストラリア / ニュージーランド	NA*	$40 000	$46 000	$105 000	$123 000
USA / カナダ	$25 000	$67 000	$90 000	$107 000	$125 000

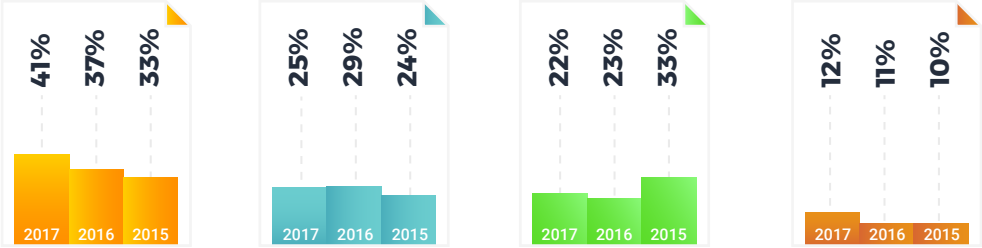
* 給与の単位は1000米ドル、もしあればボーナスや臨時収入も含む。
* NA - 意味ある情報を提供するための十分なデータが得られず。

© 2017 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

組織における テストの機能

テストチームの組織上の位置付け

【日本語翻訳チーム補足】
以下のグラフは、「テストチームの報告先」を示しています。



プロジェクトマネージャー　開発マネージャー　品質担当重役または品質担当部長　CTOまたはCIO

テスト担当部門からプロジェクトマネージャーへの報告がますます増え、品質担当重役や部長への報告が少なくなっている傾向が見られます。また、CTOやCIOに直接報告するテストチームの数も少し増加しています。

数値を見ると、R&Dチームの規模と、テスターがCTO/CIOまたは品質担当重役/部長に報告するかどうかには少し相関がありました。

中小企業ではCTO/CIOに直接報告する方向、大企業では重役/部長に報告する方向に変わってきたと私たちは見ています。

どちらの場合でも、品質担当部門が他の部門から独立して、偏りのない独自のフィードバックを組織に提供することの価値を示していると考えています。

テストチームの規模

テストチームの規模が年々小さくなっているという昨年の傾向が続いています。15人以下のテスターのチームで働いている回答者は昨年は60%でしたが、今年はもう70%近くになっており、最も増えたのは1人から5人のテスターのチームで、昨年の34%から今年は43%に増加しています。

アジャイル的な働き方の企業や構造的モデルを採用していない企業ではチームが小さくなる傾向がありますが、それほど驚くことではありません。驚いたのは、DevOps的な方法論を採用していると回答した人の1/4が51人以上のテスターを持つチームの一員であると報告されたことです。

© 2017 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

テスターの他の作業

63% ドキュメント整備

63% テスト / 開発の環境整備

50% 要求獲得

44% インテグレーション & デプロイ

44% 内製ツール開発

34% 顧客サポート & トレーニング

28% 単体テスト（他のテスト業務に加えて）

11% 専門サービス & 販売サポート

複数選択した回答者がいるため合計は100%を超えます。

テスト / 開発の環境整備の作業に関するものが昨年から最も増え、昨年の49%から63%になりました。これは、アジャイルとDevOpsの開発アプローチの採用が増加したことから大きく影響を受けていると考えています。

また、ドキュメント整備を担当しているテスターは昨年の51%から63%へと著しく増加しています。

これにはいくつかの理由が考えられます：テスターは、アジャイル機能チームのドキュメント作成作業において、より積極的な役割を担っています。これは、プロジェクトにおいてテスト作業に関係しない項目をドキュメント化する責任を担っていたり、自分たちの仕事をドキュメント化することに時間を費やしているのかもしれませんが、歓迎すべき変化です。ただし、実際のテスト作業以上にドキュメント作成に取り組むことは負担になるでしょう。

私にとってどんな意味があるの？

テストのキャリアの向上に役立つタスクを探す時は、正しくドキュメントを作成するための支援に注目したり、環境の管理やデプロイと統合のオペレーションなどのさらに技術的なタスクにも注目してみてください。

テスト文書

	2017	2016
上位テスト計画	63%	62%
詳細テストスクリプト	56%	50%
チェックリスト	56%	54%
下位テスト計画	45%	41%
マインドマップ	26%	33%
テストチャータ	20%	22%
リーンドキュメント	19%	20%
ライブドキュメント	18%	18%

複数選択した回答者がいるため合計は100%を超えます。

マインドマップやチャーターのような軽量なドキュメントの使用がやや減少し、テスト計画とスクリプトの使用がやや増加しました。

リリースノート、顧客向けヒント集、ユーザーストーリーのスナップショット、さらにはオンラインヘルプのYoutubeビデオまでも作成したと回答した人もいました。

編集スタッフの心が奪われた回答もありました：「恐れを知らないスクラムマスターが時間がかかりすぎるというので、ドキュメント化を思いとどまっています…」。私たちはこの人に、戦うことをあきらめないでください！スクラムマスターは取って代わられますが、あなたのテストの規範は取って代わられることはありません！と言いたいです。

© 2017 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

テストのアプローチと方法論

	2017	2016
探索的テスト / セッションベースドテスト	84%	87%
スクリプトテスト	58%	60%
バグ出し	44%	45%
ユーザーシミュレーション	35%	39%
調整されたユーザー（ベータ）テスト	30%	24%
ペアテスト	24%	25%
モブテスト	17%	NEW!

複数選択した回答者がいるため合計は100%を超えます。

テストタイプの分布は以前のレポートと大体同じでしたが、一方では3つ以上の異なるタイプのテストを混ぜる人が少なくなっています。また、ベータテストを実施している組織の数が昨年の24%から今年は30%とわずかに増加しました。

予想どおり、規模が大きい企業ほど最高レベルのスクリプトテストを行っていましたが、これは探索的テストでも同様でした！

興味深いもう一つの洞察は、テストの経験とこれらの手法の使用との間に相関関係が見られることです。テスターが経験豊富になるにつれて、探索的テストとスクリプトテストの両方の使用が著しく増加しています。

どのようにテストしているかに対する追加のコメントには、「本番環境でのテスト（Testing in production）」、ペルソナ分析があり、モンキーテストをあげた人も数人いました。

静的テストの活動

	2017	2016
要求分析	70%	64%
リスク分析	49%	49%
上位 / 下位レベルテスト計画	69%	63%
テストレビューミーティング	56%	52%
開発部門やプロジェクトマネージャーとの定例進捗会議	62%	61%
コードレビュー	43%	33%
振り返り	56%	55%

複数選択した回答者がいるため合計は100%を超えます。

今年は昨年からコードレビュー（33%から43%へ）と要求分析（64%から70%）が大きく増加するなど、これらの活動のほとんどが増えました。

これらすべてのカテゴリーで、企業の規模が大きくなるにつれて、静的テスト活動の採用が拡大しています。また、テストの経験といくつかの静的テスト活動の採用との間には相関関係があり、テストの経験が豊富になるにつれて、上位 / 下位レベルのテスト計画だけでなく、コードレビューと振り返りもより一般的になっています。

私にとってどんな意味があるの？

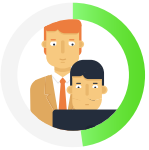
たくさんのテスト手法がありますが、ほとんどのプロフェッショナル・テスターはテストをより効果的かつ効率的なものにするために、いくつかのアプローチを融合しています。また、テストはアプリケーションを操作するだけでなく、テストを改善するために多数の静的な活動が可能であることに留意してください！

© 2017 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

トレーニング、スキル、成長

テスターの知識や学習の一般的な情報源

64%
テストの書籍



48%
ピアメンター

44%
オンライン
コミュニティ、
フォーラム

43%
正式なトレーニング

43%
認定資格と教育コース

40%
ウェビナー、
ポッドキャスト

38%
カンファレンス、オフ会、
セミナー

36%
Facebook、Twitter、
Linkedin、ブログ

34%
テストの雑誌

17%
他分野
（心理学、ライティングなど）

4%
ウィークエンドテストや
Miagi-Do*

7%
テストの課程

7%
テストコンテスト

7%
その他r

【日本語翻訳チームコメント】
*Miagi-Do http://www.shino.de/tag/miagi-do/
Miagi-Doの由来はご存知ですか?名前は映画ベスト・キッド（The Karate Kid）で主人公の少年に空手を教える日本人の老人のミヤギさんから来ています。Doは「道」です。欧米ではテストやソフトウェア開発の手法の用語として、型（kata）とかの日本語用語が使われたりしています。

テストの書籍がトレーニングや知識を得るための業界における一番の情報源であり、その後に、ピアメンター、オンラインのコミュニティやフォーラムが続きます。正式なトレーニングが増加の一途をたどって今年は43%（昨年23%、一昨年17%）となり、この伸びに添う形で認定資格も増加しています。

さらに詳しく見ていくと、現場で長く働いているテスターほど顕著になってくる分野がいくつかあることがわかります。たとえば、他の分野から学ぶこと、ウェビナーやポッドキャストを聞くこと、オンラインコミュニティやフォーラムに参加することなどです。

地域で見ると、認定資格はオーストラリア / ニュージーランド、西ヨーロッパ、アフリカでは特に強く、北米、アジア、インドでは著しく弱くなっています。北米、ヨーロッパ、オーストラリア / ニュージーランドは他の地域と比較してカンファレンスやオフ会が強く、興味深いことにウェビナーやポッドキャストも同様です。

複数選択した回答者がいるため合計は100%を超えます。

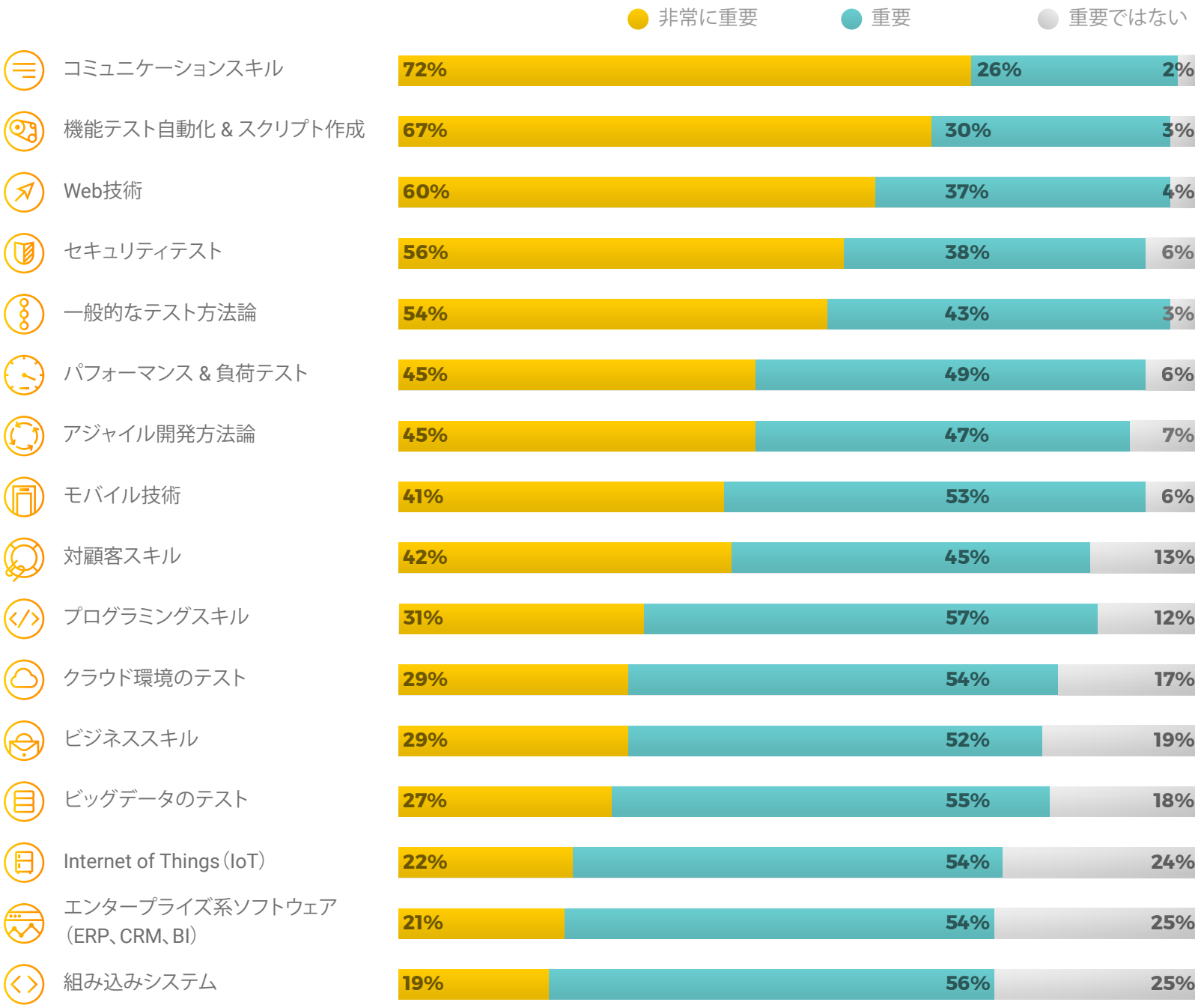
© 2017 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

良いテスターになるためのスキル

これらの数値を昨年と比較すると、多くは昨年と同様の値のままですが、いくつか注目に値する業界動向を示すと思われる興味深い変化があります。

機能テスト自動化＆スクリプト作成（そしてプログラミングスキル）、セキュリティテスト、ビッグデータのテストを重視する人が増えています。

他にも次のようなスキルも必要だとの回答がありました：分析スキル、批判的思考、ソフトスキル*とネットワーキング、懐疑心、自己学習、ライティングスキル、一般的な技術の理解、リーダーシップ、リスク分析、創造性、交渉術、適応性、私たちの個人的なお気に入りであるユーモアと根気！



【日本語翻訳チーム補足】
*ソフトスキル
コミュニケーション、ファシリテーション、ネゴシエーションなどの主に対人的な技能

© 2017 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

昨年よりも、更に参加者が増え、興味深いカンファレンスも増えています。いくつかをここで紹介します！

OnlineTestConf
AgileTestingDays
WeTest Conference
Quality Excites
Testing Cup
CAST
Let's Test
JaSST

WACATE
QAI Quest
WrotQA
Automation Guild
ExpoQA
MadQA
STPCon
Tabara de Testare

STWC
QAFest (in Keiv)
TestNet Conference
Eurostar
QA&Test
Star Canada
Dutch Testing Day
Nordic testing days

QA or the Highway
VodQA
SQiP
SoftCon 2016
Test Atelier
StarEast & StarWest
TISQA
TestFest

J'oburg Software Testers Meetup
Pacific Northway Software Quality Conference
Melbourne Testing Conference
TestBash Manchester
GTAC
KWSQA Conference
A&A Days
TestingUY

TestBash Brighton
TestBash Philly

私にとってどんな意味があるの？

今日は多くのイベントが無料またはオンラインで実施されています。この中から2つ3つ選んで、キャリアを後押しするイベントに数多く出席することを目標にしてください。

© 2017 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

テストプロセス

テストの管理に使われるツール

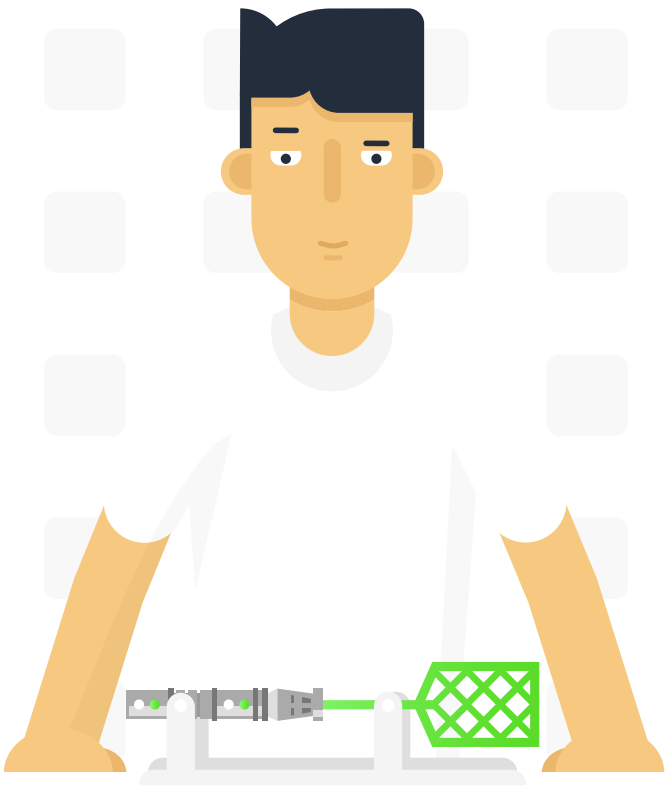
バグ管理システム	87%
MS ExcelやWordなど	37%
テストやQAの管理ツール	26%
プロジェクト管理ツール	17%
探索メモ用ツール	16%

複数選択した回答者がいるため合計は100%を超えます。

全体的に見て、今年は、テストチームに属するより多くの方々が、本来のテスト作業以外のタスクに携わっていました。このことは、テスターがますます、複数のタスクをこなすメンバーで構成される機能チームの一部になってきたという事実を表しているのかもしれません。

私にとってどんな意味があるの？

イノベーションは、キャリアアップを考える全ての人々にとって重要なことです。イノベーションを起こす実用的で簡単な方法は、新しいツールを探してきてあなたの仕事に取り入れることです。



新しいテストツールの採用

Yes	No
56%	44%

テスター達がどのくらい新しいツールを彼らの仕事に取り込んでいるのかを知りたかったため、過去1年間に新しいツールを取り入れたかどうかを質問しました。それほど頻繁には取り入れないだろうと考えていたため少し驚きましたが、回答者の半数以上がYESと回答しました。

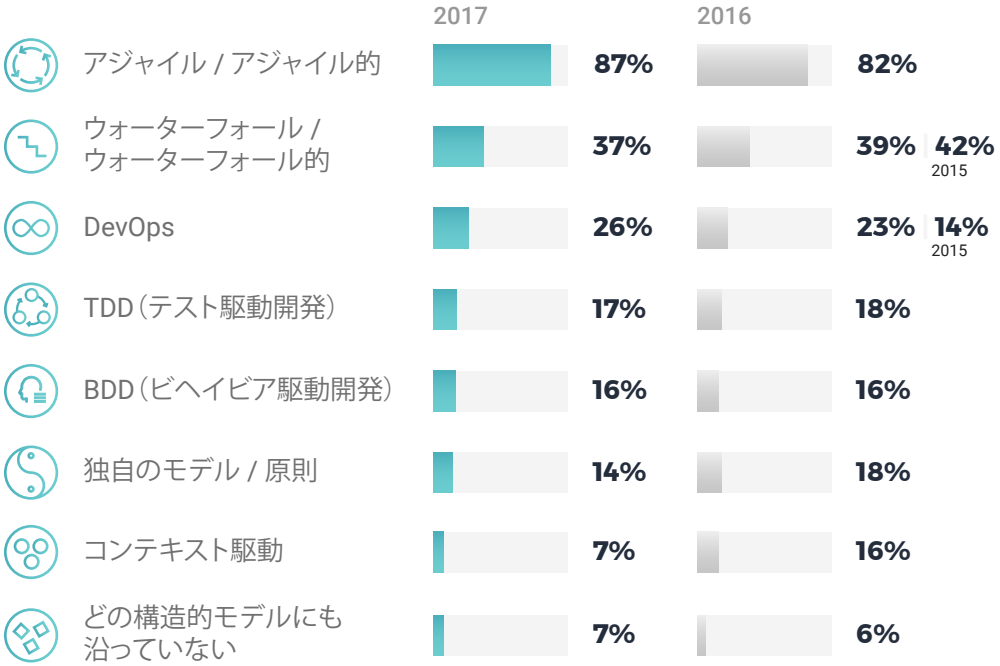
どのようなツールを使い始めたかを自由回答形式で質問したところ、以下のようなツールが挙がりました。

- テスト管理
- 自動化（多くの方々がSeleniumを使い始めていました）
- CI（継続的統合）フレームワーク
- BDDツール
- 負荷テストツール
- その他

複数選択した回答者がいるため合計は100%を超えます。

© 2017 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

開発モデル



とても興味深いのは、アジャイルの採用がほとんど一般的になっていることで、回答者の87%近くがアジャイル、もしくはアジャイル的な方法論を使っていると回答しています。昨年の結果が82%という高い数値であったにも関わらずさらに増加しました。

他の明確なトレンドはDevOpsの採用で、昨年は23%、2年前は14%足らずだったものが今年は26%となりました。その逆の状況として、ウォーターフォールについては昨年の39%、2年前の42%から低下し、今年は37%でした。

1つの奇抜な回答として、「カオスの法則」に基づいて働いている、というものがありました（笑）

CI（継続的統合）とCD（継続的デリバリー）

36%
全てのプロジェクトで採用

39%
いくつかのプロジェクトで採用

43.7%
非採用

5%
CI / CDって何？

2%
その他

これは新しい質問（非常に興味深い）ですが、CI / CDは今日では世界的に標準となっており、回答者の75%が常時、もしくは少なくともいくつかのプロジェクトで採用していると回答しています。

もしCI / CDが何か分からないのならば、急いで勉強した方がよいでしょう。研究開発部門に聞いてみてください。十中八九、彼らはすでに使っています！

今は使っていないと答えた回答者さえ、その大半が近いうちに採用することを計画していました！

複数選択した回答者がいるため合計は100%を超えます。

私にとってどんな意味があるの？

トレンドは明確です。CI / CDプロセスをまだ仕事に取り入れていないのであれば、直ちに着手しましょう！

© 2017 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

自動化の状況

85% はい

13% いいえ

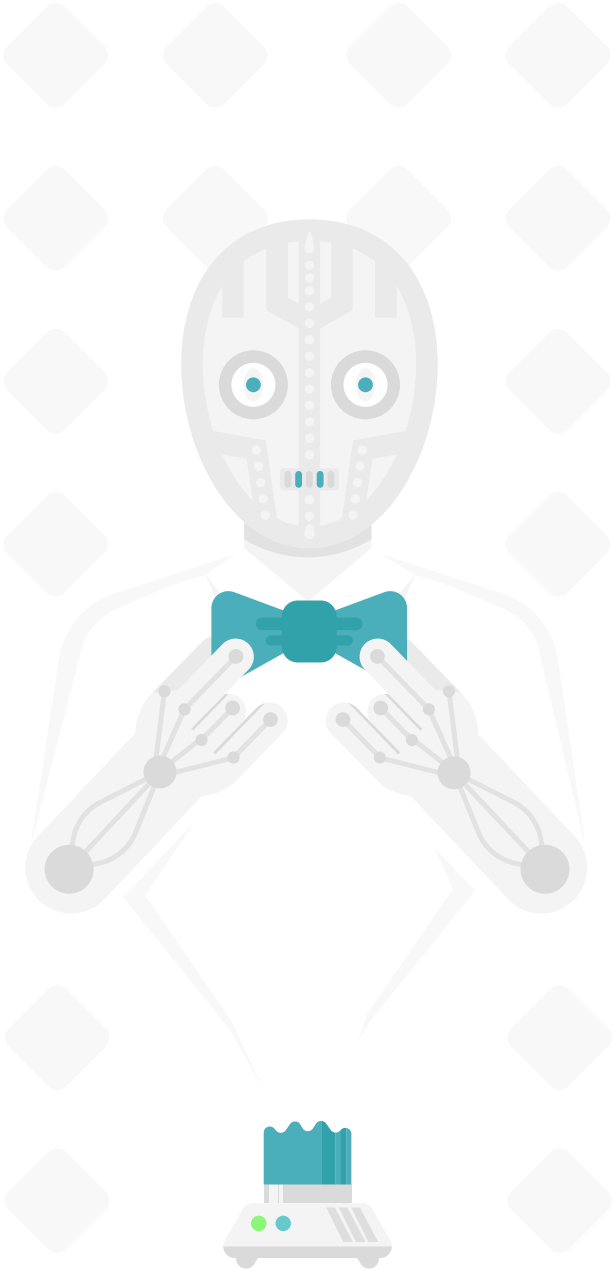
2% 分からない

機能テストやリグレッションテスト	75%
CI（継続的統合）/ CD（継続的デリバリー）	42%
負荷テストやストレステスト	41%
単体テスト	37%
テストデータの生成	22%
自作スクリプト	17%
SpecflowやGherkinなどによるBDDスクリプト	16%

複数選択した回答者がいるため合計は100%を超えます。

全体的に見ると、自動化を採用している回答者の割合は昨年と同じで全体の85%でした。

自作スクリプトのツールを使っていると答えた回答者の割合が昨年の23%から17%へと、またBDDスクリプトを仕事に使っていると答えた回答者の割合が昨年の21%から16%へと、わずかに低下していました。



追加の質問として、どのくらいテストケースを自動化しているかを確認しました。その結果は以下の通りでした。

7% 分からない

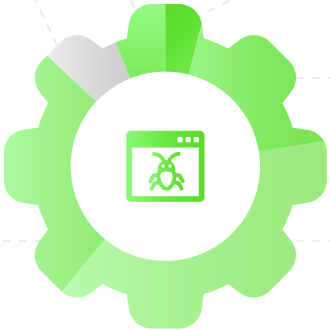
5% 計測していない

4% 90%超

19% 50 ～ 90%

26% 10%未満

39% 10 ～ 50%



私にとってどんな意味があるの？

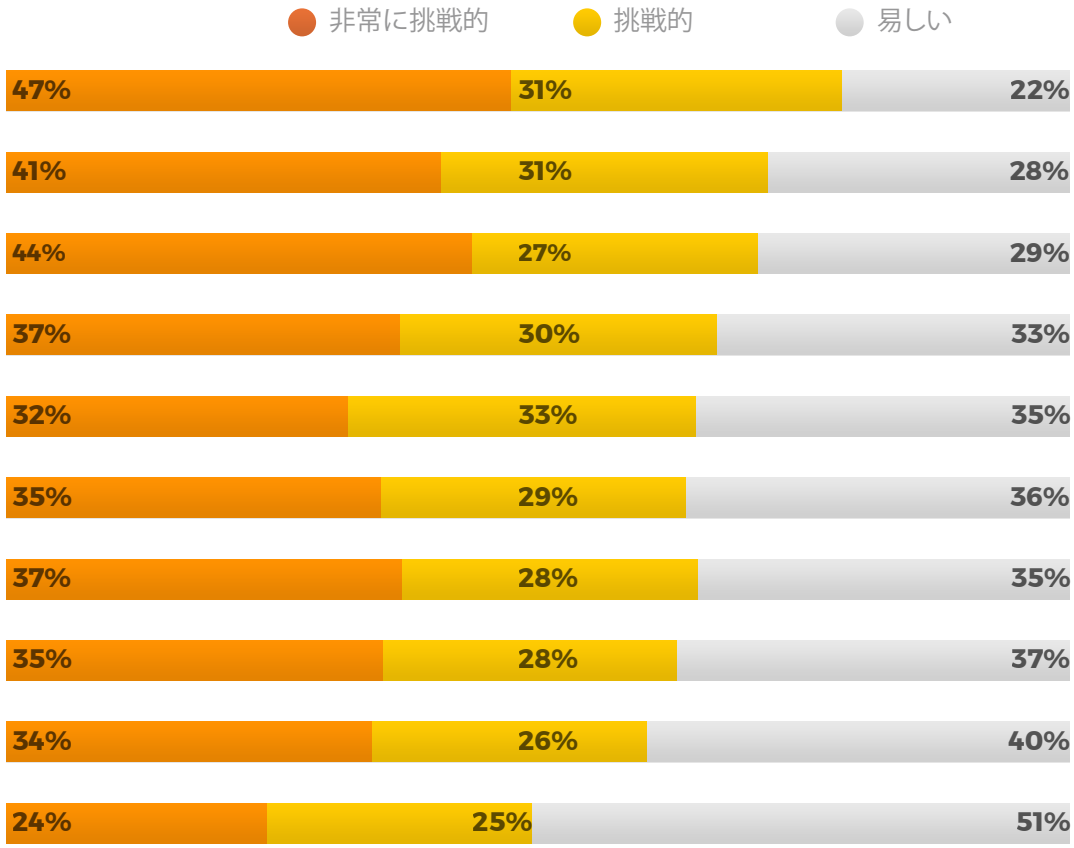
あなたのプロジェクトで自動化を採用するということは、必ずしも全ての作業を自動化することを意味しているわけではありません。小さなことから始めることで、自分達をあるべき姿へと導くことができるでしょう。また、今日ではたくさんのツールから適当なものを選択することができます。

© 2017 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

テストの現在と未来

テストチームが抱える課題

「その他」の回答に次のものがありました：チームメンバー間での知識の共有、逆算思考（計画立案の前に約束されている日からの）、早期段階でプロジェクトに入り込めないこと、非構造的なテストプロセス、要件の明確化、ウォーターフォールからアジャイルへの移行、開発チームの姿勢への対応、チームの動機付けの維持、プロセス改善への不熱心さ、私たちの最大の課題は経営陣によって真剣に受け止めてもらうこと。



© 2017 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

テスト方法の変化

回答者が彼らのチームやプロセスの中で新しいことをどのように取り込んでいるのかを理解するために自由回答形式で質問しました。かなり興味深い回答が得られました：

- それほどの価値を生まない大量の公式ドキュメントの作成のために多くの時間を無駄にしていたので、リーンドキュメントの作成に移行しました。
- 開発者に自分の仕事をテストするよう教えようとしています。
- パーセンテージの追求ではなく、洞察的な傾向が探せ、新しいアプローチを経営陣に説明できるメトリクス。
- 組織内のより多くのプロジェクトをサポートできるようにオフショアやアウトソーシングを活用してテストチームの規模を拡大することです。
- 計画に重点を置くこと。リグレッションの問題がないように、きちんとインパクト・マトリクスを使うこと。
- スナップショットをチームに導入しました。また、作業が楽になるバッチスクリプトを多数導入し、夜間に最新のビルドに自動的に更新されるQA環境の構築にもつながりました。
- テストプロセスを正式化しました。これまでは所定のプロセスはありませんでした。スプリントの中でテストするチームを編成しました。チームが開発に追いつくことができ、ストーリーの完了を適切に理解してプロジェクトを進めていけるようになります...
- 各スプリントのリグレッション確認時間を1週間から1日間に短縮しました。ハッピーパステストのほとんどを自動化しました。テストチームが各スプリントで自動化するものを決定しています...
- 私たちは継続的デリバリーに適応しています。また、もっとテストを行えるように開発者をサポートするテストコーチとしても活動しています。
- 組織内の多様な部門間の（コミュニケーション）ギャップのつなぎ役に専念しています...
- クリーンに振る舞い、いつも笑顔で、人々を笑わせます。
- 私たちは広範な「マスターテスト計画」を「3ヶ月間のグローバルテスト計画」に変更しました。詳細テスト計画はスプリント計画に依ります。
- 手動と自動のテストチームを統合しました。すべての手動テスターは、自動化ツールの訓練を受けました。
- 開発を開始する前に、要件や設計についてテスト担当者、開発者、レビュアーが議論するために、キックオフ会議を開催するようにしました...
- 簡単なWebフォームを作成し、開発者が私たちにどんなテストをしてほしいのかを組織的なやり方で他のステークホルダーと共にテスト計画に追加できるようにしました。

© 2017 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

今後3 ～ 5年後の間に、総じてどのような新しい技術や課題がテストの世界で重要になるでしょうか？

今後「ホットな話題」になりそうなものを知るために、別の自由回答形式の質問をしました。

若いテスターや、これからどのような技術や知識の習得に時間をかけるべきかを検討している方々に興味深いアイデアがあります！

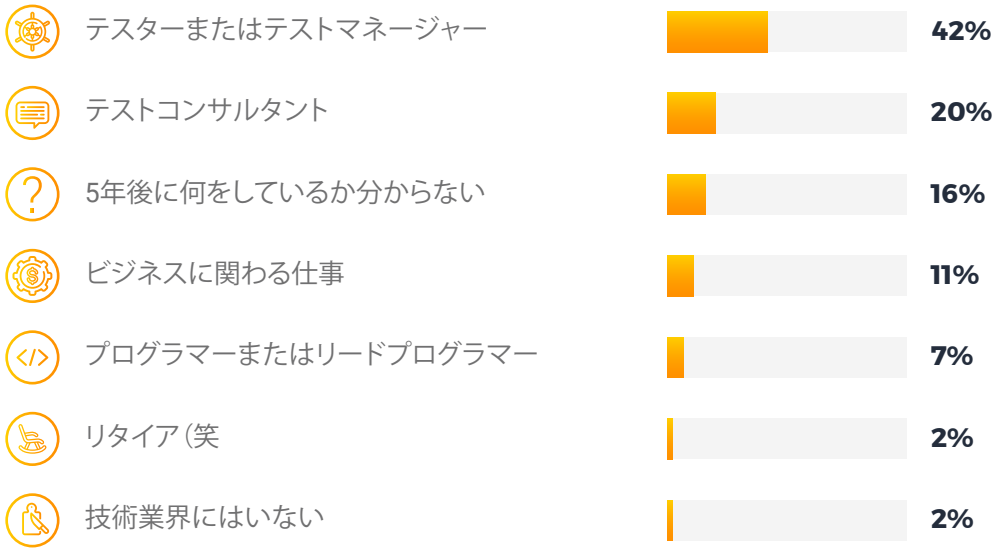
私にとってどんな意味があるの？

私たちは（適切な時期に適切な場所にいることを確認するために）今後何が「ホット」になるのかを何度も自問しています。ホットなものやホットになりつつあるものに関する非常に具体的なアイデアは次のとおりです。

© 2017 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

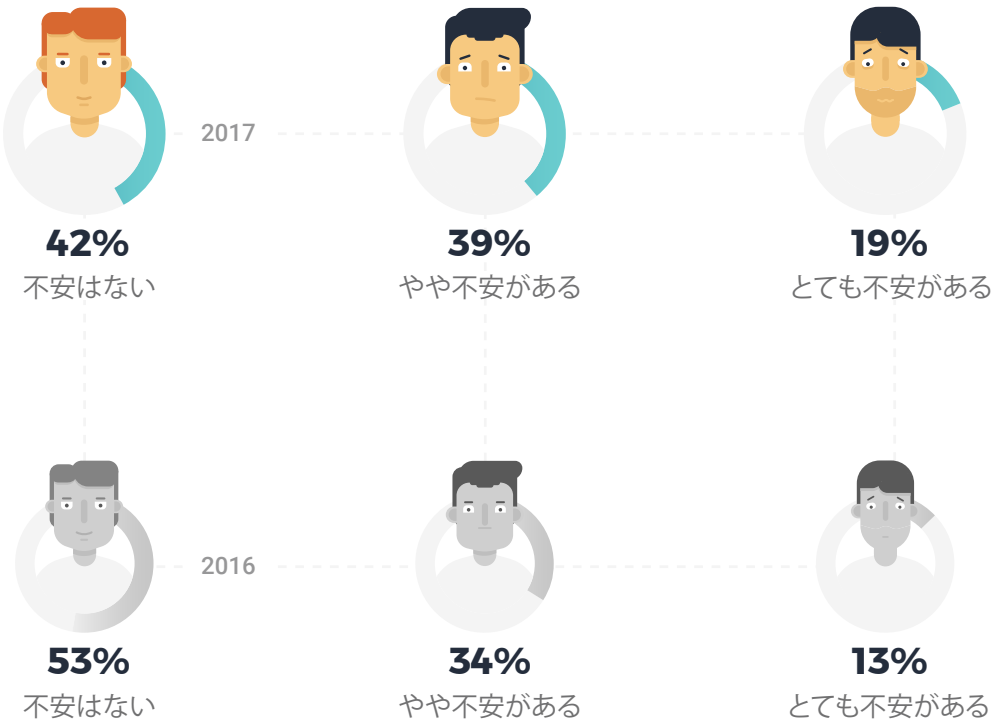
キャリアと自己啓発

5年後の自分は何をしていると思いますか？



テスターとして継続しているという回答者の数が少し減少しました。（昨年46% → 今年42%）テストコンサルタントも同様に減少しています。減少した分は、ビジネスに関わる仕事（昨年7% → 今年11%）、またはプログラミングに関わる仕事へとシフトしています。

職業の安定性について どれくらい不安がありますか？



これは、テスターが自らの職業に対して全体的な安定性をどのように感じているかを測る「体温計」となる質問です。今年は、回答者の半数以上が職業の安定性にやや不安がある、またはとても不安があると回答していることから、昨年に比べて懸念が大きくなっていることが見てとれます。

© 2017 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

テスターを採用する時マネージャーは何を重視しているのでしょうか？

採用担当マネージャーに新しくテスターを採用する時に、最近は何を重視しているかを質問した結果、次のような点を重視していることが分かりました：

問題解決力 /
論理性 /好奇心

創造性

テストの考え方

既成概念に
とらわれずに考える能力

技術力

コミュニケーション力 /
聴く力 / 明晰さ

積極性 / 良い態度

変化へ素早く
適応する力

モチベーション /
やる気

自発性

チームプレイヤー

細かい注意力 /
几帳面さ

私にとってどんな意味があるの？

この質問は、新しいチームメンバーを探す上で重要なことは何かを知らない（新しい）マネージャーだけでなく、面接の準備をするテスターにとっても良い質問です。

© 2017 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

理想的な未来のテストの世界

私たちは、人々がどのような目的でチームやプロセスで新しいことに取り組んでいるかを理解するため、自由回答形式で質問をしました。かなり興味深い回答があります：

- 製品 / ビジネスの成功へのテスターの役割と重要性をもっと業界がよく理解してほしいと思います。
- より多くの女性の業界への進出を...
- さらなる革新、より良いオープンソースのツール。
- テスターもテスターではない人もテストについてうまく話せるようになってほしいです。
- 自動化はすべての解にはならず、実際のテストにもっと時間をかけた方が、良い結果が得られるということが理解されること...
- より明確なトレーサビリティ、より構造化された自動化、および動的な知識ベースを持つことで、いかに生産上の問題が回避できるかが、より理解されること。

- ...QAは特定の役割が担うものではないことを皆さんに理解してもらいたいと思います。誰もがアプリケーションの品質に責任を持っています。
- 人々に私たちが提供する価値をもっと理解してほしいです。私たちが仕事をあまりにもうまくやりすぎるので、製品の最終品質において私たちの価値が見えないと感じることがあります。
- 私の組織の多くのテスターに自分自身の専門性を大切にしてほしいです。
- 私はもっと情熱的なテスターに会いたい。テストは専門職であると分かってほしいです。
- 80年代と90年代のプログラミングがそうであったように、コミュニティを圧倒するためにはテストに対する情熱が必要です...

© 2017 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

おわりに

お気付きかと思いますが、今回の調査では、テスターやマネージャーに対して多くの自由回答形式の質問を設け、これらの回答から、少しではありますが、世界のテスターのより個人的な側面を興味深く垣間見ることができました。

奇妙で絵空事のようにも聞こえるかもしれませんが、グローバルなテストコミュニティが持つ困難さや課題においては、相違点よりも類似点の方が多いものです。

私たちは、プロセスを順守することよりも市場の機会を逃さないために素早く製品を提供することに関心のある経営陣と共に仕事をしています。また私たちの大半は、組織において最も注目が集まる開発チームの影で働いています。さらに、多くの同胞は、自分たちのプロセスや組織に対する働きかけを周りの人間は理解してくれていないと感じているにも関わらずです！

アンケートの回答と傾向を確認したところ、これらの回答は実に国際的なものであることが分かりました。

しかし、このことは私たちの仲間から学ぶチャンスがあることも意味しているのです！

私たちは、新たに現れ世界中の組織が採用している方法論を学ぶことができます。また、テストを次のレベルに引き上げるための作業の一環として、使用するべき技術と解決策に関するアイデアを得ることができます。さらに、私たちテスターがプロセス、製品、そして何よりもチームに提供する実際の価値を会社に理解してもらえるようにするために必要なステップを知ることができます。

テストコミュニティとして、私たちは改善するための知識と、それを実現する強さを持っています。

私たちの「テストの現状調査レポート」は、テストコミュニティの周りで起こっている知識共有の海の小さな滴に過ぎません。あなた方には、ぜひともテストの世界のより良い未来を築くプロセスにおいてより積極的に活動し、世界中の素晴らしい人たちが集うグループの一員となることをお勧めします！

最後となりましたが、4回目の「テストの現状調査レポート」の作成 / 公開にあたって、時間をかけて指導いただいたレビュー委員会のメンバーのJerry Weinberg、Jean Ann Harrison、Jay Philips、Justin Rohrman、Ben Linders、Rajes Mathurの各氏、私たちを世界中のテスターへ繋いで彼らの声を運んでくれた多くの協力者のみなさま、そしてこのプロジェクトを成功に導くために舞台裏で力を貸してくれた私たちの技術チームのみなさまに感謝申し上げます！

ではまた来年お会いましょう！

Lalit & Joel

ご不明な点、コメント、ご意見がございましたら、お気軽にお問合せください：

Lalit
editor@teatimewithtesters.com

Joel
joel@practitest.com

© 2017 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

PractiTestについて

PractiTestは、QAチームに対して、その生産性を最大化しリリースサイクルを加速させつつ、ますます複雑になるテストを管理する包括的なテスト管理ソリューションを提供します。

PractiTestは、先進的なバグトラッキングシステムや自動化ツールと容易に統合できるため、既存のテスト環境に簡単に適応できます。柔軟かつ高度なカスタマイズ性により、PractiTestは各ビジネスの独自のニーズを満たすことができ、組織は統制を失うことなくテストの能力を拡張できます。

多次元的なダッシュボードとレポートにより、PractiTestはテストのあらゆる側面を即座に見える化し、プロジェクトの状況を関連するステークホルダに明確に伝えることを保証します。

より詳細と、15日間のトライアル版についてはWebサイトへ：
https://www.practitest.com

Tea-time with Testersについて

Tea-time with Testersは、世界に配信されているソフトウェアテストの（オンライン）月刊誌です。これまでにない変化の波がビジネスやテスト業界、テスターのコミュニティに押し寄せてきている現在、Tea-time with Testersは、明日のチャレンジに必要な最新情報をお届けすることを約束します。それらの情報は、ソフトウェアテストの世界をさらに深く、完全に理解するのに役立つことでしょう。

2011年の創刊以来、本誌はテスト刊行物の関係者にとってひとつのベンチマークになっており、本誌がソフトウェアテストの理論や考え方に関する真摯な報告を初めて行いました。そして、改めて、技術的 / 企業ジャーナリズムの全く新しいジャンルにより近く、より鋭く迫る最初のものになろうとしています。本誌は、世界中のテストコミュニティにおける唯一の月刊誌であり、そのコンテンツの品質、執筆陣、独特な情報提供で知られています。現在、Tea-time with Testersは、世界の英文テスト雑誌の中で最高の発行部数と読者数を誇っています。

より詳細はWebサイトへ：
http://www.teatimewithtesters.com/

© 2017 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.

ご協力いただいた方々

今回の調査が実現したのは、ご協力いただいた方々のおかげです。

www.softwaretestingtools.com

www.qualitytesting.info

www.infoq.com

www.stephenjanaway.co.uk

www.qualityremarks.com

www.qahiccupps.blogspot.co.uk

www.blog.testingcurator.com

www.testknight.de

www.testpappy.wordpress.com

www.linkeshkannavelu.com

www.benlinders.com

www.sahipro.com

www.djdegrood.wordpress.com

www.qualitestgroup.com

www.adventuresinqa.com

www.testretreat.com

© 2017 - PractiTest & Tea-Time with Testers. All rights reserved.